



流を流すとコンデンサーが充放電し、金属ベルトに電流が流れる。これによって給電する「電界結合」と呼ぶ方式だ。

道路



豊橋技術科学大学教授 大平 孝氏

イリサーチセンター長兼

実現し、注目を集めた。大成建設とインフラ部分の共同研究を始めるなど、産業界との連携も進んでいる。

変革を遂げ、一掃に「大平の目線の先には、確かな実像を結んでいる。」

大無線総局巨重耳たか 敬称略 (安倍大資)

かんきつ類で肥満改善

種・皮にある成分発見

東京大学の佐藤隆一郎教授は、かんきつ類の種や皮に含まれる成分が肥満や高血糖を改善することを発見した。脂肪分が多いえさに成分を混ぜ、マウスに食べさせた実験で効果を確かめた。加工食品を製造する時の廃棄物を有効活用できる可能性がある。食品会社と共同研究を進め、3年以内

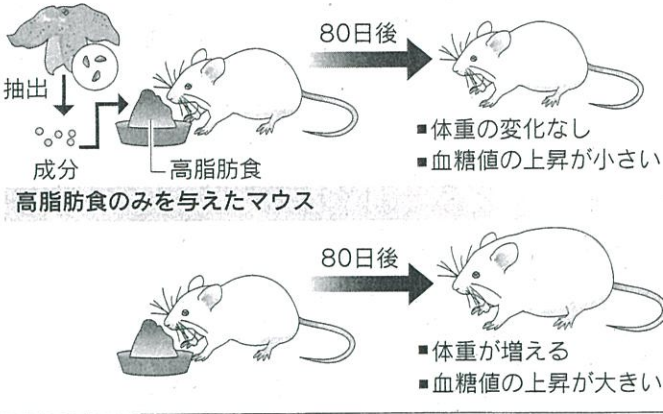
研究グループが効果を確かめたのは「ノミリン」という成分。エタノールなどを使う方法で、種の重さの約1%のノミリンを抽出した。

実験ではマウスの群れを2つに分け、一方に高脂肪食を、もう一方には総量の0.2%をノミリンに変えた高脂肪食を与えた。80日後の体重を計ると、高脂肪食を与えたマウスは体重が10%増えたのに対し、ノミリンを混ぜたマウスは変化がなかった。

また、高脂肪食を与えたマウスの血糖値は正常なマウスの約2倍になったのに対し、ノミリンを混ぜたマウスは約1.5倍にとどまり、症状が和らぐことを確かめた。

ノミリンは筋肉や小腸の細胞にある「TGR5」という受容体と結合する。同じような動きをする物質としては、肝臓が分泌する胆汁酸が知られている。しかし胆汁酸はせっけんのような動きをするため、直接摂取すると食道や胃の粘膜を溶かして炎症を起こす。研究グループは胆汁酸と同様の物質を約500種類の食品由来の成分から探し、ノミリンを見つけた。経口投与しても消化管に害を及ぼさない特徴がある。企業との共同研究では、より効率の良い抽出方法を開発する考えだ。(荒牧寛人)

かんきつ類の成分で肥満や高血糖の改善を確かめた



東大、マウスの実験で確認 高血糖にも効果

2015年コスモス国際賞を受賞したストロームホルム大学のヨハン・ロックストローム教授

コスモス国際賞受賞 ロックストローム教授 温暖化対策、猶予は5年



ロックストローム教授

COP21「最後の機会」

「先進国の温暖化対策の効果もある」とし、対策を急げば状況は改善できるの見通しも示した。

欧州などでは温暖化を「単なる環境問題ではなく経済発展、安全保障、健康などの問題」とらえている」という。日本に対して「先端技術やイノベーションの力を生かして持続可能な成長の実現へ、もう少しリーダーシップをとってほしい」と注文を付けた。

膜素材を電子顕微鏡で見ると、ハスの葉に由来するチューブ状構造が無数に並ぶ。この素材を「目的」を指向する。向上につなげる。普及が進む小型センサーや高性能系だ。

ロックストローム教授は「人類が地球で生存できる気候や生物多様性の変化の限界」「プラネタリーバウンダリー」を指摘した。コスモス国際賞は国際花と緑の博覧会記念協会が主催で、COP21と緑の博覧会記念協会が主催だと呼びかけた。昨年にCO2の増加が止まったマに毎年授賞している。

Techno Online

この予言力がなぜ出かを説明するのは簡単に。イェンスは物事の因縁を克明に追い、体系付けたとていえば、原素それぞれを断片とす。パズルのようなものに描かれる「断片」は、つくりはまって、納骨パターンが、矛盾的一的な人間のサイエ、体系だ。